

第2回教育文化センター利活用検討ワークショップ

第2回は「必要機能の具体化」をテーマに、第1回で見てきたニーズを基に、「過ごしたい時間」を支える機能・空間・コンテンツを整理し、優先順位とゾーニングの方向性を確認しました。今回出された意見は、次回のどのような機能が必要となるかを考えるベースとなります。

日 時 : 令和8年8月2日(日)14:00~16:00

会 場 : 教育文化センター4Fホール

参加者 : 公募16名(内 高校生 4名、子育て世代 1名、地区代表 4名)
施設関係職員8名

運 営 : 氷見市教育委員会事務局文化振興課
株式会社アール・エ北陸

グループ別に整理した各グループの特徴

グループA

交流拠点・
幅広い世代・
多様な用途

- ・教育文化センターを「文化・学習・交流・子育て・防災の機能を兼ね備えた多世代交流拠点」として再整備することを重視
- ・図書館・博物館の機能配置を見直しながら、フリースペースや学習スペース、イベント会場など、多様な用途に対応できる空間づくりや、子育て世代への配慮を充実させる提案
- ・4階や屋外空間を含め、平常時と災害時の双方で活用できる機能や、利便性・快適性を高める設備整備など、幅広い利用者に対応した総合的な施設づくりを重視

グループB

学習・交流拠点・
利便性向上

- ・教育文化センターを「図書館を核とした学びと交流の拠点」へ発展させることを重視
- ・図書館のワンフロア化や開館時間延長、4階への学習機能移設など、学生や市民がより長く快適に利用できる環境づくり
- ・単なる利用者目線だけではなく、管理運営のしやすさや職員配置など、施設運営面を踏まえた現実的な意見も多い

グループC

交流拠点・
多目的利用・
屋外空間整備

- ・教育文化センターを「利用する目的がある人だけが訪れる施設」ではなく、散歩の途中に立ち寄る、地域活動に参加する、交流するなど、日常的に人が集まる施設へ転換することを重視
- ・湊川沿いの立地や周辺環境を活かし、施設内だけで完結するのではなく、屋外空間や地域とのつながりを通じて、まち全体のにぎわい創出につなげる提案が多い

グループD

開放感・利便性向上
・滞在促進

- ・教育文化センターを「閉じた公共施設」から「活動が見える開かれた施設」へ変えることを重視
- ・図書館・博物館・カフェ・コワーキングスペースなどを組み合わせることで、市民の学習、仕事、交流、滞在を促進する「まちなかの拠点施設」としての役割を期待

グループE

安心感・多世代利用
・にぎわい創出

- ・教育文化センターを「市民が用事のある時だけ訪れる施設」ではなく、「日常的に立ち寄り、過ごすことができる身近な場所」へ転換することを重視
- ・子育て支援機能、飲食・物販機能、屋外空間の活用など、施設利用のきっかけを増やし、幅広い世代が自然と集まる環境づくり

各グループの意見まとめ①

Aグループ

【施設配置・機能再編】

既存施設の機能配置を見直し、文化施設としての魅力向上を図る

- ・ 図書館を2階へ移設し、1階全体を博物館機能として活用
- ・ 博物館ロビーにおける展示内容の紹介
- ・ 博物館展示を季節ごとに変更するなど、継続的に来館したくなる仕組みづくり
- ・ 現在の子ども図書館スペースをカフェコーナーとして活用

【市民交流・学習スペースの整備】

利用目的を限定しない自由な空間を整備し、学生・市民が気軽に利用できる場を創出

- ・ 1階にフリースペース設置
- ・ 勉強コーナー、交流スペースとしての活用
- ・ ガラス窓を活かした開放的な交流空間の整備
- ・ 段差を活用し、静かに過ごせる場所と会話できる場所を分けた空間づくり
- ・ オンラインで仕事や学習ができるブース機能

【子育て・子ども向け機能】

子育て世代が安心して利用でき、子どもが楽しみながら過ごせる施設環境を整備

- ・ おむつ替えスペース、個室型授乳室の設置
- ・ 子どもの遊び場(木育、ボルダリング)

【多目的利用・イベント機能】

市民活動や学習活動、イベント開催など、多様な活動を支える拠点機能を強化

- ・ 会議室、防音付き研修室の整備
- ・ 体操教室等に利用できるスペース
- ・ イベント会場として利用可能な広い自由空間

【4階の活用】

普段利用だけでなく、災害時にも活用できる多機能な空間として整備

- ・ 展望台としての活用など景色を楽しめる空間づくり
- ・ ギャラリー機能
- ・ 災害時の避難所としての活用
- ・ 自由に使える広いスペースの整備

【屋外空間・周辺連携】

施設内部だけでなく、屋外空間も活用し、人が集まり交流が生まれる環境を形成

- ・ 駐車場を活用したキッチンカーとの連携
- ・ 屋外芝生広場の整備

【設備・利便性向上】

誰もが快適に利用できるバリアフリー・利便性向上を図る

- ・ エスカレーターの設置
- ・ Wi-Fi環境整備
- ・ トイレ改修

各グループの意見まとめ②

Bグループ

【図書館機能の充実・施設配置見直し】

図書館機能を充実させ、利用者の利便性向上と効率的な管理運営を両立

- ・ 図書館面積の拡大、ワンフロア化
(管理側にとってもワンフロア化により管理しやすくなる)
- ・ 開館時間を延長し、利用機会を拡大
- ・ 博物館機能は2階へ配置し、展示スペースを確保

【交流・にぎわい空間の整備】

交流機能も組み込んだ施設配置検討に加え、施設内部の活動を外部へ発信・見える化し、自然と人が集まる交流空間を形成

- ・ 既存エントランス部分を多世代交流のための談話室として活用
- ・ ガラス張りの空間とすることで、外から活動の様子が見える施設づくり
- ・ 子どもを迎えに来た保護者が様子を確認しやすい環境整備
- ・ 通行人や観光客が中の雰囲気を感じ、立ち寄りたくなる空間づくり

【カフェ・滞在機能】

湊川沿いの景観を活かし、読書や休憩、交流を目的に訪れたくなる滞在型の空間を整備

- ・ 川に面した現在の図書館スペースをカフェとして活用
- ・ 川を眺めながらゆっくり過ごせる空間づくり
- ・ 道路側へのテラス席設置

【4階の学習・学生利用機能】

学生や社会人が集中して学習できる環境を整備し、長時間滞在しやすい利便性の高い学習拠点を形成

- ・ 図書館休館日に関係なく利用できる学習環境を整備
- ・ 大人数用テーブルではなく、個人で集中できる座席を増設
- ・ 持ち込み飲食が可能な学習環境の整備
- ・ 軽食を利用できるスペースの設置
- ・ 小規模なコンビニ・売店機能の導入

【運営・管理体制】

安心して利用できる環境整備に加え、施設管理者にとっても運営しやすい仕組みを構築

- ・ 4階の学習スペースは生徒だけの利用空間にせず、事務機能を一部配置し、職員が同じフロアにいる環境を整備
- ・ 利用者の安心感や施設管理面を考慮した運営体制を検討

各グループの意見まとめ③

Cグループ

【施設配置・機能再編】

施設内の機能配置を見直し、利用目的に応じて快適に過ごせる、多様な活動に対応した空間づくり

- ・ 図書館を2階以上へ移設し、1階をフリースペース(交流など)として活用
- ・ 話せる場所と静かに過ごせる場所を分けた空間づくり
- ・ 机の形状を工夫し、利用者が集まりやすい環境を整備
- ・ 眺望を活かした空間づくり(日差し対策も必要)

【交流・にぎわい創出機能】

周辺環境も活用し、市民活動やイベントが自然に生まれる交流拠点的形成

- ・ 屋外空間を活用した交流の場づくり
- ・ マルシェを等のイベント利用への対応
- ・ 屋外家具の設置
- ・ 湊川沿いに大屋根付き芝生広場を整備
- ・ 大屋根下で100歳体操やラジオ体操を実施
- ・ 大屋根による全天候型の交流スペース
- ・ デジタル掲示板の設置

【高齢者・地域利用への対応】

高齢者をはじめ地域住民が日常的に利用できる居場所機能を強化

- ・ まちなかサロンを4階へ移設
- ・ カフェや駄菓子屋など地域住民が集える場の整備
- ・ NPOバスの待合所設置などバス利用者が利用しやすい環境整備

【文化・学習活動機能】

現状の施設にない文化活動や学習機能を補完し、市民活動の場として活用

- ・ 北大町の造形芸術センターの各種教室を移設
- ・ 和室を復活し、習い事や文化活動に活用
- ・ 学習や交流ができるスペースの整備

【防災機能】

平常時だけでなく、災害時にも地域を支える防災拠点として活用できる施設へ

- ・ 防災機能を備えた外階段(垂直避難)の整備
- ・ 避難所利用時の防災倉庫設置
- ・ 屋上避難に対応した柵の設置
- ・ 非常用電源の整備(屋上へのソーラーパネル設置)

各グループの意見まとめ④

Dグループ

【施設配置・機能再編】

施設内の機能配置を見直し、利用者が目的に応じて利用しやすく、各機能が連携する施設構成

- ・ 1階と2階をつなげ、お互いの活動が見える空間づくり
- ・ 1階を交流スペース、2階を個々の学びの場として活用
- ・ 図書館・博物館の配置を見直し、ワンフロア化や図書館機能拡充

【交流・滞在空間の整備】

利用者が自由に過ごせる余白のある空間を整備し、市民が主体的に利用できる施設を形成

- ・ 1階に様々な人が交流できるオープンスペースの整備
- ・ 玄関ホールの有効活用や玄関周辺への椅子設置
- ・ 飲食可能なスペースの整備
- ・ 24時間利用できる施設運営(市民団体による運営も検討)
- ・ ルールではなく、建物のつくりによって利用者が自然に住み分けできる空間づくり

【氷見らしさ・情報発信】

氷見の魅力発信拠点として、市民だけでなく来訪者にも地域性を感じられる空間を形成

- ・ 交流スペースで氷見を紹介する映像を放映
- ・ 魚のモチーフなど、氷見らしさを感じる入口デザイン
- ・ 施設内の配置が分かりやすい案内表示の設置
- ・ 川沿いの景観を活用した空間づくり(湊川の環境改善も)

【子ども・子育て環境】

子ども連れでも安心して訪れることができ、幅広い世代が利用しやすい施設環境

- ・ 室内に子どもの遊び場を整備
- ・ 子どもが安心して過ごせるスペースづくり

【4階の活用】

眺望や開放感を活かした仕事・学習・交流・休憩など多様な利用が可能な滞在型空間

- ・ カフェ機能整備(気軽に利用できるカフェ、外部エレベーターから直接アクセス可)
- ・ 展望を活かした自習室やカフェ
- ・ オープンスペースを中心に、ガラス仕切り等を活用した柔軟な空間構成
- ・ コワーキング・レンタルスペース(コピー機等完備)
- ・ 講演会等に利用できる空間

【利便性・設備改善】

誰もが利用しやすいバリアフリー環境と、明るく開放的な施設環境を整備

- ・ エレベーター等の利便性向上
- ・ 窓を増やし明るい空間にする
- ・ 壁や床の色を明るくする
- ・ 立体駐車場の整備
- ・ エレベーター・階段から駐車場へアクセスしやすくする

【防災機能】

日常利用だけでなく、災害時にも地域を支える防災機能を備えた施設として活用

- ・ 防災を兼ねた大階段の整備(大テラス機能付き)
- ・ 屋上まで避難できる動線づくり

各グループの意見まとめ⑤

Eグループ

【施設利用環境・利便性向上】

誰もが安心して利用できるバリアフリー環境を整備し、初めて訪れる人でも利用しやすい施設づくり

- ・ トイレを明るく清潔な空間へ改修
- ・ 授乳室、おむつ替えスペースの設置
- ・ 多目的トイレの整備
- ・ スロープの設置(車いす・ベビーカー対応)
- ・ 玄関ホールの有効活用、玄関への椅子設置
- ・ 建物全体を明るく、入りやすい雰囲気へ改善

【飲食・交流機能】

目的がなくても訪れることができ、地域住民の交流が自然に生まれる滞在型施設を形成

- ・ 飲食可能スペースの整備
- ・ 気兼ねなく井戸端会議ができる場所づくり
- ・ 地元住民が気軽に集える交流空間の創出

【博物館機能・地域魅力発信】

博物館を「見るだけの施設」から、「地域文化を体験・発信する施設」へ

- ・ 博物館オリジナル土産の開発・販売
- ・ その他土産物の販売(お菓子、地場産品)
- ・ 博物館DVDの放映
- ・ 実際に触れることができる民具展示の充実
- ・ 博物館へ気軽に立ち寄れるようなPR強化

【子ども・子育て機能】

子ども連れでも気軽に訪れることができ、親子で長時間過ごせる環境を整備

- ・ 4階に安心して利用できるキッズスペースの整備
- ・ 子どもが過ごせる場所づくり
- ・ 子育て世代が利用しやすい設備整備

【駐車場・屋外空間の活用】

施設周辺を含めた一体的な空間整備により、市民だけでなく観光客も訪れたい交流拠点を形成

- ・ コミュニティバスのルートへの組み込み
- ・ バス停の整備(屋根付き)
- ・ ベンチの増設(屋根・日陰付き)
- ・ キッチンカーの定期開催、お祭り屋台の利用
- ・ 全天候型のイベントスペース整備
- ・ 屋根や木陰のある公園整備
- ・ ウォーキング利用者の休憩所整備
- ・ 雨天時でも濡れずに駐車場へ移動できる屋根整備
- ・ 大通りに案内看板設置
- ・ ユニバーサル駐車場の整備
- ・ モニュメント設置による撮影スポット化

【防災機能】

平常時の交流機能に加え、災害時には地域を支える防災拠点としての役割を担う

- ・ 4階の避難所としての活用
- ・ 災害時にも利用できる施設整備

全体のまとめ

【図書館】

ワンフロア化や学習スペースの充実など、より快適に利用できる環境整備

【博物館】

展示内容の充実や地域文化の発信、物販・体験機能の導入による魅力向上

【1階】

交流スペースやカフェ、フリースペースなど、誰もが気軽に立ち寄れる開放的な空間の創出

【4階】

学習・仕事・文化活動・交流など、多目的に利用できる滞在型空間として活用

【その他(屋外など)】

- ・芝生広場やキッチンカー、マルシェなど、屋外空間も活用したにぎわい・交流の創出
- ・防災機能やバリアフリー化など、平常時・災害時の双方に対応した安全で利用しやすい施設整備



図書館・博物館機能を充実させるとともに、学習・交流・子育て・仕事・防災など、
多様な機能を備えた地域の拠点施設への転換を求める声が多い

教育文化センターは、学習・文化機能に加え、市民が学び、交流し、地域の魅力を発信する「**まちなかの交流拠点**」としての役割が期待される。

今後は、既存機能の充実とともに、**多世代が日常的に集い、継続的に利用したくなる空間づくり**を進めていくことが重要である。

施設機能案①

図書館を中心に、多世代が学び、日常的に利用できる施設を目指す

1階 様々な世代の人が気軽に過ごせるワンフロア図書館

- 図書館は1階スペース全体を活用し、ワンフロアにする(博物館は2階へ)
- 図書館の中に、カフェスペースや子供用スペース(静かにしなくても良いスペース)も入れて気軽に過ごせる空間の創出
 - ※静かに読書や学習をする空間との切り分けを徹底し、多様な利用ニーズに対応
- 図書館の中に氷見を紹介するコーナーも

※図書館内のカフェを図書館利用客用の読書カフェにするか、カフェ利用のみも可とするかについては要検討

屋外(1階の機能とつながりを持たせるように)

- 芝生広場の整備(全案共通)
- 図書館内のカフェは、屋外にテラス席を設けることで屋外から施設への導線とする
 - ※図書館内のカフェを、カフェのみの利用も可とする場合は、カフェ専用の外からの入り口を設けるなど入りやすさを工夫する
- カフェと連携したキッチンカーやマルシェ

4階 市民の学びと活動のためのフロア

- 自習室
- コワーキング・レンタルスペース
- カルチャースクール・ふるさと教育
- ギャラリー(カルチャースクールやふるさと教育と連携し市民作品等展示)

交流やにぎわい創出を図り、人々が自然と集まる施設を目指す

1階 人々が立ち寄りやすい文化と交流のフロア

- 博物館を1階にまとめる(図書館は2階へ ※個別学習スペースは図書館内に)
- 博物館以外のスペースやエントランスを交流スペースに
- 博物館以外のスペースはイベントの際にも活用

屋外(1階の機能とつながりを持たせるように)

- 芝生広場の整備(全案共通)
- マルシェやキッチンカー
※1階の交流スペースを飲食可能とし、キッチンカー等で購入したものを食べられるようにすることで、施設内への導線とする
- イベントにも活用

4階 人と活動がつながるフロア

- 市民活動スペース
- コワーキングスペース
※学習もできるが、静かな自習室というよりは、学生が集まれる場というイメージ
- 景色を楽しめる展望カフェ
- キッズスペースや交流スペース(交流スペースから子供の様子が見守りやすいような構造)

地域文化や歴史を活かし、氷見の魅力発信を目指す

1階:氷見の魅力を知り、氷見がもっと好きになるフロア

- 博物館を1階にまとめる(図書館は2階へ ※学習スペースは図書館内に)
- ミュージアムショップやお土産(地場産品)の販売
- 氷見を紹介する映像を流す(観光案内も)
- ミュージアムカフェ

屋外(1階の機能とつながりを持たせるように)

- 芝生広場の整備(全案共通)
- 1階カフェのテラス席(案①同様施設内への導線へ)
- 地場産品の販売はマルシェで行うのも可
- イベントへの活用

4階:文化を育み、発信するフロア

- カルチャースクール・ふるさと教育
- ギャラリー(カルチャースクールやふるさと教育と連携し市民作品等展示)
- キッズスペース(木育など)
- 多世代交流スペース

全案に共通して必要だと思われる機能・改修案

防災機能(主に4階や屋上)

- 主に4階を災害時の避難場所や防災倉庫として活用
- 上階や屋上までの垂直避難ができるような機能(非常用の外階段など)
- 屋上への柵設置(屋上に避難した場合の安全性確保)
- 非常用電源の確保(ソーラーパネル設置など)

その他、施設の利便性や快適性向上に係る機能

- トイレの改修(もっと明るくきれいに、多目的トイレの設置)
- オムツ替え用スペース、授乳室の整備
- エスカレーターを設置もしくはエレベーターの利便性向上(広くするなど)
- Wi-Fi環境整備(コワーキングスペース等設置する場合は必須)
- スロープの設置(車いすやベビーカー対応)などのバリアフリー対応
- 明るく、開放的な空間づくり(窓を増やす、ガラス張り、壁や床を明るい色にするなど)
- 屋外の芝生広場整備※再掲
- バス利用者の利便性向上